

社会科学習指導案

令和4年5月23日(月) 第5校時 第4学年2組(5年3組教室) 指導者 樋口 晃

【単元】ごみのゆくえ 「(2) ア(イ)・(ウ), イ(イ)」

考察	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
育成を目指す資質能力	ごみを処理する事業は、衛生的な処理や資源の有効利用ができるように進められていることや、地域の生活環境の維持や向上に役立っていることへの理解と、統計や写真等の資料で調べ、まとめる技能	ごみを処理する事業の仕組みと地域の生活環境とを関連付け、ごみを処理する事業の役割や、ごみの分別や再利用等、地域の生活環境の維持や向上のために自分たちが協力できることを考え、表現する力	ごみを処理する事業の仕組みについて主体的に調べ、問題を解決したり学習したことを社会生活に生かそうとしたりする態度と、地域社会の一員としての自覚
子どもの実態	- これまでの生活経験から、収集車によってごみが清掃工場に運ばれることは理解している。 - ごみ収集カレンダーから、家庭から出されるごみの種類や収集方法の違いを読み取ることができる。	これまでの生活経験から、ごみの分別や再利用等の大切さを話すことはできるが、それらがごみを処理する事業の仕組みや地域の生活環境に関連があることに気付いていない。	- ごみの処理に対して、自分にはほぼ関わりがないものであるという意識が強い。 - ごみを処理する事業の仕組みや役割と自分たちの衛生的な生活との関連を実感的に捉えていない。
価値	- 子どもたちは、ごみを集積所に出せば衛生的に処理されたり、再利用されたりする仕組みが当たり前のようにある生活を送っている。その中で、ごみの処理には優れた仕組みや工夫があることを実感せずに生活している。このような子どもたちが、ごみを処理する施設の仕組みを実際に見学したり、そこで働く人たちの工夫や、困っていることを聞き取り調査したりすることは、子どもたちが生活していく上でごみの処理の優れた仕組みを実感的に捉えたり、ごみの処理に対して協力することの必要性を感じ、自分たちが地域の生活環境の維持や向上のために協力できることを考えたりすることにつながる。そして、そのような工夫に自分たちが協力していくことが、ごみの衛生的な処理や生活環境の維持や向上につながることへの気付きを促し、子どもたちの地域社会の一員としての自覚を養うことにつながる。 - ごみの処理について、観点ごとに調べたことを総合することにより、ごみの処理は地域の生活環境の維持や向上に関連しているという概念的知識を得ることができる。 - 関係機関が発行するパンフレットや聞き取り調査でごみを処理する仕組みや工夫を調べ整理することにより、ごみの処理の仕組みをまとめる技能を身に付けられる。	ごみを処理する事業の仕組みと地域の生活環境とを関連付けて追究することにより、ごみを処理する事業が、地域の公衆衛生に関連があることや、ごみの分別や再利用等の取組などに自分たちが協力することが、地域の生活環境を維持したり向上させたりすることにつながることを説明できる。	見学後に、ごみを処理する事業の仕組みや役割と自分たちの生活との関連を見いだすという学習の過程により、ごみを処理する事業の仕組みや役割が、自分たちの生活環境の維持や向上に関連があることを実感的に捉えることができる。
見方・考え方	ごみを処理する事業について、処理の仕組みや再利用、県内外の人々の協力に着目して、ごみを処理する事業の様子を捉え、それらと自分たちの生活とを関連付けたり総合したりして、その役割や自分たちが協力できることを考えること。		
今後の学習	4年「水とわたしたちの暮らし」で、飲料水の供給の仕組みや経路、県内外の人々の協力に着目して、飲料水の供給のための事業の様子を捉え、それらの事業が果たす役割を考える学習へと発展していく。		

指導と評価の計画

目標	ごみを処理する事業の取組や工夫によって、ごみが衛生的に処理できるように進められ、それが市民の衛生的な生活環境の維持と向上に役立っていることを理解する。			
評価 規準	(①知・技) ごみの処理に関わる取組は、衛生的な処理や資源の有効利用ができるように進められていることや、市民の衛生的な生活環境の維持と向上に役立っていることを理解している。 (②思・判・表) ごみの処理に関わる施設の取組について観点に基づいて見学・調査したり、資料を活用して必要な情報を集め、読み取ったりして、まとめている。 (③主体的態度) ごみの処理に関わる取組について、学習問題を見いだしたり、ごみの処理と市民の生活環境とを関連付けて考えたりして、表現している。 ごみの処理に関わる取組に関心をもち、主体的に調べたり、ごみの分別や資源の再利用等の取組に協力したりしようとしている。			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	評価項目<評価方法(観点)> ※太字は「記録に残す評価」
つかむ	1	○ごみの処理についての疑問点や調べたいことを考え、学習問題を立てる。 —— 学習問題 —— 自分たちが出した大量のごみはどのように処理されているのだろう	○ごみの処理についての疑問点や調べたいことを考えられるように、清掃工場へ一日で運び込まれるごみの量を示す資料やごみ集積所の写真、家庭から出るごみや地域のごみ収集の仕方が分かる資料を提示する。	◇ごみの処理に関する疑問点や調べたいことを記述している。 ＜学習プリント②＞
	1	○ごみの処理の仕方についての予想を基に、学習計画を立てる。 ＜調べる観点＞ ・燃やせるごみの処理 ・資源ごみの処理 ・燃やせないごみの処理	○ごみの処理の仕方について予想できるように、ごみ収集カレンダー、清掃工場の様子、パック状にされた資源ごみ、燃え残ったごみ、ごみ集積所の写真等の資料を提示する。	◇資料から予想したごみの処理の仕方や、ごみの処理が抱えている身近な課題について記述している。 ＜学習プリント③＞
追究する	2	○ごみの処理をする施設について、調べる観点に基づいて調べる。(現場学習)	○ごみを処理するための清掃工場の働きや、抱えている課題を捉えられるように、工場の見学とともに清掃工場で働く人々の工夫や困り感等を直接聞く機会を設定する。	◇ごみを処理するための清掃工場の仕組みを記録している。 ＜学習プリント①＞
	1	○燃やせるごみの処理の仕組みについて、調べたことを基に話し合う。	○燃やせるごみの処理の仕組みについて整理できるように、清掃工場のごみを処理する流れを示すパンフレットや清掃工場内の写真を提示する。	◇ごみ焼却時の煙の排出や、灰の減量ができるように工夫をして、燃やせるごみの処理が行われていることを記述している。 ＜ノート①＞
	1	○資源ごみの処理の仕組みについて、調べたことを基に話し合う。	○資源ごみの処理の仕組みを捉えられるように、資源ごみを処理する仕組みが掲載されたパンフレットや作業の様子の写真、リサイクルマークの画像を提示する。	◇3Rを基本にごみを減らす工夫をして、資源の有効利用をしていることを記述している。 ＜ノート①＞
	1	○燃やせないごみの処理の仕組みについて、調べたことを基に話し合う。	○燃やせないごみの処理の仕組みを捉えられるように、燃やせないごみを処理する仕組みが掲載されたパンフレットや最終処分場の残余年数に関する資料を提示する。	◇燃やせないごみを処理する仕組みが、最終処分場になるべくごみを送らないように配慮されていることを記述している。 ＜ノート①＞
まとめる・生かす	1	○ごみの処理に関わる施設の仕組みをまとめ、学習問題の答えを出す。	○燃やせるごみ、資源ごみ、燃やせないごみの処理の仕組みや工夫を総合して考えられるように、仕組みや工夫をそれぞれの処理の仕組みごとに分けてまとめる学習シートを用意する。	◇ごみの処理に関わる事業は、市民の生活環境を維持したり向上したりできるようにごみを処理していることを記述している。 ＜学習シート①＞
	1	○自らの身の回りにあるごみの処理に関わる具体的な課題をつかみ、新たな学習問題を立てる。 —— 新たな学習問題 —— 身の回りにあるごみの処理の課題を解決するために、自分たちはどのようなことができるだろう	○ごみを処理する施設の仕組みだけでは解決できない課題を見いだせるように、ごみであふれた過去の日本の様子や、清掃工場で働く人々の困り感、最終処分場の残余年数に関する資料、ごみ集積所の写真を提示する。	◇身の回りにあるごみの処理の課題から、自らが解決したいと思う課題を選び、記述している。 ＜学習プリント②＞
	1	○身の回りにあるごみの処理の課題を解決するために、実現可能で、より効果的な取組を話し合う。(本時)	○ごみの処理の課題を解決するための自らが考えてきた取組をよりよい取組にできるように、「実現可能」、「より効果的」の二軸の座標軸がある学習シートを用意する。	◇ごみの処理の課題を解決するために、自らができることに取り組むことの意味や大切さを記述している。 ＜学習シート③＞

本時の学習（１０／１０時間目）

ねらい ごみの処理が抱える課題を解決するために自分たちができることと生活環境の維持や向上とを関連付けて話し合うことを通して、自らが実現可能で効果的な取組を見だし、地域社会の一員として協力することの大切さを実感できるようにする。

評価項目 ごみの処理の課題を解決するために、自らができることに取り組むことの意味や大切さを記述している。

<学習シート③>

学習活動と子どもの意識	指導上の留意点
１ 本時のめあてをつかむ。 ・ごみを処理する仕組みがあるおかげで、自分たちの生活の維持や向上につながっていたな。でも課題があったから、その課題を解決するために自分が協力できそうなことを考えてきたよ。友達と話し合って、実現できて効果が大きい取組を決めたいな。 (問題意識) めあて：身の回りにあるごみの処理の課題を解決するために、自分たちはどのようなことができるだろう	○ごみの処理の課題を解決するために、自らが実現可能な取組を決定するという、本時で解決する問題を明確にできるように、本時で解決したい内容を問いかける。 ○自らの取組の重要性を想起できるように、身の回りのごみの処理の課題を放置した未来の様子について、予想したことを問いかける。
２ ごみの処理の課題を解決するために、自らが実現可能な取組を話し合う。 ・ぼくは、最終処分場が１０年くらいで埋まってしまうのを何とかしたいよ。だから、プラ容器のお菓子の袋を燃えるごみに出さないよ。分別してリサイクルできれば、燃やした後の灰が少なくなって、最終処分場に埋められる期間が少しでも長くなると思うからね。 ・Ａさんはごみを捨てないようにしようとしているな。確かに捨てなければ効果は大きいけど、ごみを捨てないことはできないと思うな。分別することの方が実現できそうだよ。Ａさんの点を置く位置は、「実現可能」のところが低くて「より効果的」のところが右に寄ったところになるよね。 ・納得してもらえたぞ。でも、ぼくの分別もお菓子の袋だけだと効果は低いことに、話していて気付いたよ。もっと他の物も分別した方がよいな。 ・Ｂくんは、買い物のときにマイバッグを使っているのだね。これは、リデュースをしているということだね。買い物のときにマイバッグを使えばレジ袋を使わなくてすむから、ごみを減らすことができるね。マイバッグを持つことは簡単にできるし、やることがはっきりしているからやりやすいよね。 ・ぼくは、資源ごみを燃えるごみとして出さないように分別したり、レジ袋をもらわずにマイバッグを使ったりしていこうと思ったよ。少しのことでも、ぼくたちができることを続けていけば、きれいで安心な生活がこれからも続けられるね。 (問題を解決した意識)	○ごみの処理の課題を解決するために自らができることの、自他の取組の共通点や相違点を見いだせるように、それぞれの取組を比較するよう促す。 ○ごみの処理の課題を解決するために、自らが実現できる取組と生活環境との因果関係から、より効果的な取組を考えられるように、教師があらかじめ同じ課題を選んだ子どもを意図的に組んだ小集団で、「実現可能」「より効果的」の二軸の座標軸がある学習シートに、座標を表すよう促す。 ○自らの取組と生活環境との因果関係を明確にして、自らの取組を決定できるように、子どもたちが取り組もうとしていることが実現可能や効果的だと言える理由を具体的に問いかける。 ○小集団で話し合い見いだした、ごみの処理の課題を解決するために自らが実現できる取組の妥当性を判断できるように、ごみの処理の課題の解決と自らの取組のつながりを説明するよう促し、その妥当性を学級全体に問いかける。 ○「持続可能な社会の実現」という視点をもてるように、「SDGs」の１７の目標を提示し、自分たちの取組が世の中に与える影響を問いかける。
３ 本時の学習の振り返りをする。 ・ぼくは、ごみ処理の課題に対して自分ができることを、小さなことでも続けていくことで、きれいで安心な生活を自分たちでつくっていくことが大切だと思ったよ。そうすれば、地域や未来のためになると思うからだよ。	○ごみの処理の課題に対して自らが行う取組の意味や大切さを実感できるように、本時の授業を行い「大切だと思ったことと、その理由」という視点で振り返りを記述するよう促す。